

数学科（数学 I）学習指導案

日 時	平成 30 年 5 月 24 日（木）第 1 限	指導者	村上 貴彦	
学 級	普通科 1 年 1 組	教 室	101 教室	
単 元	第 3 章 2 次関数	教科書	数学 I（数研出版）	
指 導 目 標	1 関数のグラフの意味を理解させ、併せてグラフの移動に関する理解を深めさせる。 2 2 次関数の特徴をグラフによって明らかにし、それらの特徴を利用して、関数の最大値・最小値を求めさせる。	指 導 計 画	第 1 節 2 次関数とグラフ 1 関数とグラフ …………… 2 時間 2 2 次関数のグラフ …………… 6 時間 3 2 次関数の最大と最小 …… 5 時間 (本時はその 3) 4 2 次関数の決定 …………… 2 時間 問題 …………… 1 時間	
主 題	2 次関数の最大値・最小値と場合分け	課 題	教科書の 2 次関数の最大値・最小値の問題 (P89 練習 20) を解く。	
目 標	1 場合分けが必要な問題設定を理解させる。 2 軸と定義域の位置関係によって最大値・最小値が変化していくことを理解させる。			
	学 習 活 動	時間	指導上の留意事項	評価規準・方法, 資料等
本 時 の 指 導 過 程	導 入	5	・定義域の片側が文字であるときの場合分けを確認させる。	・プリント
	展 開	10 30	・最大値・最小値が変化する a の値を確認させる。 ・平方完成が正しくでき、最大値と最小値が求められているか確認させる。 ・定数 a の値が変化しても適切に最大値・最小値を求めることができることを理解させる。	・プロジェクト 【評価規準】 ○場合分けの必要性を理解している。 (数学的な見方や考え方) 【評価方法】 ○行動観察により評価する。 【評価規準】 ○軸と定義域の位置関係によって最大値・最小値が変化することを理解できている。 (数学的な技能) (関心・意欲・態度) 【評価方法】 ○問題の取組により評価する。
	整 理	5	・2 次関数の最大値・最小値はグラフの概形, 軸, 定義域の関係によって決定されることを強調する。	
	備 考	生徒数 38 名 (男子 17 名, 女子 21 名)		